

第1回 五ヶ丘地区教育環境検討協議会 会議録

【日 時】令和7年8月2日（土）11:00～12:30

【場 所】益富交流館 中会議室

【出席者】委員13名、事務局3名

【欠席者】委員1名

【傍聴者】2名

【議 事】 1 報告事項

- （1）五ヶ丘地区の教育環境に関するこれまでの検討経緯について
- （2）寄せられた御意見等の状況について

2 協議事項

- （1）会長及び副会長の選任について
- （2）五ヶ丘地区の教育環境の検討について
- （3）五ヶ丘の新しい学校を語る住民参加型ワークショップの検討について
- （4）五ヶ丘まちづくりワークショップへの参加について

3 今後の協議会日程（予定）

【内 容】（要点）

- 1 （1）五ヶ丘地区の教育環境に関するこれまでの検討経緯について
- （2）寄せられた御意見等の状況について

事務局 （資料に基づき説明）

- 2 （1）会長及び副会長の選任について

事務局 （立候補・推薦の有無を確認の上、事務局から会長に五ヶ丘小学校 PTA 会長の鈴木委員、副会長に五ヶ丘自治区連合会会長の寺崎委員を提案）

各委員 （異議なしの声） → 決定

- 2 （2）五ヶ丘地区の教育環境の検討について

事務局 （資料に基づき説明）

委員 「情報周知・情報共有」とはどのようなものか。

事務局 五ヶ丘のまちづくりで発行されている「ニュースレター」のようなものをイメージしている。この協議会で話し合った内容や結果、今後の予定などについて広く住民にお知らせすることが狙い。

委員 防災フォーラムを担当しているときに調べたが、この地区は年代別、年齢構成の状況に課題があり様々な問題を引き起こしていると思う。例えば 64～75 歳は平均の 2 倍程度だが、そのような状況から見ると小学生は多い。一方で 24～39 歳の母親世代と小学生は強い相関があると言われているが、今後を見込むと 1 学

年 8 名どころではない減少が危惧される。そういった情報など共有できれば、住民とも同じような話の繰り返しではなく、収束に向かえるのではと思う。

委員 9月28日の五ヶ丘まちづくりワークショップの時間は14時から16時でまちがないか。

事務局 そのように確認している。

委員 認識のずれや議論の後戻りを防ぐため、協議会で議論した終わりに、決定事項や次回に向けた課題などについてまとめ、確認してはどうか。

委員 協議会での議論の目的、何かを決定するという部分があいまいだった。

会長 いただいた意見を参考に、本日の終わりに確認したいと思う。

委員 統廃合を市が決定するということであれば、協議会は何をするのか。今年度の内容はワークショップの準備委員会のような位置づけだが、自分はそのような場だと認識していなかった。

事務局 昨年度の協議会の議論で学校の再編において「魅力ある学校」がポイントになるという部分があった。その部分について話をしていきたい。

委員 つまり再編自体は決まっており、再編後の姿を話し合う場ということか。または、新しい学校の姿として再編しないということもありえるということか。このあたりをはっきりさせないと、議論が進まない。

事務局 市としては、最終的に再編をすることが理想なのではないかと考えているが、住民の意見も聞かずに一方的に再編計画を進める、ということとはできない。議論や対話をする中で、多くの人が再編を望んでいない、今の環境に満足しているという場合もありえるとは思う。市として、意見を踏まえた再編計画案を示すことが良いと考えている。

委員 住民の熱意や思いを伝えて、案に反映してもらうことが大切だと思う。アンケートをとっても、学校に通う家族もおらず無関係で、意見がない住民も多くいる。ただ、それでもより良い環境にするために意見をする場が、この協議会ではないか。

委員 資料を見ると、意見を踏まえ再編を決定するのは令和8年度中ということではないか。

事務局 令和8年度中で、と考えている。

委員 寄せられた意見で、統廃合の賛否はどうなっているか。

事務局 賛否を聞くようなアンケートとしていない。意見の内容や課題をつかみ、どのようにしていくかを考えていきたい。

委員 昨年度の会議録を確認すると、アンケートを実施する予定をやめているようだが、なぜか。

事務局 まず、昨年度の協議会の意見として、「市の学校再編案（統合案）を提示のうえ、アンケートで賛否の確認を実施すべき」ということで、アンケートの素案を作成した経緯がある。ただしその後、市教育委員会で協議をする中で、市の理屈のみでどちらの学校に再編すべきという案を示すことはできないという話をさせてもらった。まずは、説明会を開催し、不安に思うことやどんな学びを期待するかなどの意見を聞く場を設けるという流れで、全世帯へのアンケートは実施しなかった。

委員 住民の賛成・反対の現状把握をしないまま進めることは、市が学校再編をする

前提で進めているようにとらえられるのではないか。

再編の可否について住民の民意は反映せず、新しい学校の環境づくりをするのが協議会の委員の役割ということか。

事務局 今年度検討するワークショップにより意見をいただきたいと考えている。

委員 寄せられた意見を何か反映させるようなことはあるのか。

事務局 現時点で具体的には挙げられないが、参考になる御意見はあった。

委員 議論の材料として住民の賛成・反対の状況について知りたい。例えば、最初に聞いて、ワークショップ後に聞いても良いのでは。それをなぜ避けるのか。

委員 昨年度のアンケートについて自分も回答したが、濁したようなものだった。現状把握として賛否を聞いて、賛成が多かったらそれで進められるし、反対が多いのであればどうやって改善できるかという判断材料にすればよい。アンケートの賛否ですぐに決定しようと言っているわけではない。

どんな学校にしたいかという話し合いというが、保護者の一人としても市が濁しているということが分かる。

会長 この協議会の経緯として、令和5年3月に学校再編についての要望書が地域から出ているということがある。

委員 このような話は知らなかったが、どのような話だったか地域の方にお聞きしたい。

委員 各PTA会長・副会長、各子ども会の会長・副会長の方に集まっていたき、区長も加わり、令和4年11月に皆さんに話を聞いた際、ほとんど反対はなかった。総意として「教育環境について考えた方が良い」ということになり、要望書として「学校再編の検討」「十分な議論・研究を重ねた合意形成」「再編する場合の学校間の密な連絡・交流」などとした。この要望書から始めようという趣旨であった。

10数年前にも再編の話があったと聞いているが、一部の反対の声が大きく市も検討に入れず、実現されなかった。今回はこういった経緯の中で、市も検討に入ってくれている。

運動会の様子などを見ていると、昔の児童数が多い時代を過ごしてきた身からすると環境として課題があるように感じている。

始まりは要望書だが、市としては乱暴には進められないため、ステップを踏んでいる状況と理解している。ただ、5・6年先ということは時間がかかりすぎると感じる。

以前の委員からしっかり引継ぎなどをしていただかないと、議論が戻ってばかりで、継続性がなくなってしまう。

委員 再編のアクセルを踏めない原因も、住民の現状把握ができていないからではないか。

委員 区長として、様々な場面で協議会などの活動について話をするようにしているが、組長たちも意見は言わない。それは、自治区の役員候補になるのを嫌っているのもあると思うが、組長が小学生の親でないことも多いからだと思う。アンケートをとっても、世帯主なのか、小学生の親なのかでも異なってくると考えると、難しい面はある。アンケートだけに縛られても良くないかなと思う。

委員 一度反対が多くなってしまうと、覆すのは難しく決まってしまうおそれがある。そのため、ワークショップなどを通して再編のメリットなどを十分共有した上でアンケートを実施した方が良いという考えではないかと思う。

委員 いつまでにアンケートをとるなどの目標、ゴールをはっきり示さないと、反対の声に押されて同じ話が繰り返されてしまい、年度も終わっていつてしまい、メンバーもまた変わってしまう。協議会のみんなの思いとしては早く進めたい、意味のない1年間にしたくないということだと思う。例えば、次の次の協議会には賛成・反対をとり、さらに次の協議会でどうしていく、などについて考えていかないといけないのでは。

委員 アンケートをとってしまうと扱いに困るということだと思う。区長は入れ替わっても大きく意見が変わらないと思うが、PTA の内部でしっかり話し合い、議論を継承してもらうことが大切。

委員 現状把握をしたいのであれば、市にやってもらうばかりではなく、各団体において実施しても良いと思う。各団体でまとめ、協議会の場で話し合うことも良いのでは。

ワークショップについては、不安や不満を拾い上げたいということであれば、そういう人に参加してもらうことが重要。例えば、各小学校でアンケートをとり、不安や不満についてワークショップの参加につなげるべきではないかと思う。

以前の説明で一番怖いと感じたのが、8 人の学年になり、男女のどちらかが 1 対 7 となってしまった場合など、自分の子どもに置きかえると、相談できる相手もいないのは嫌だと感じた。少人数の環境だと男女比の問題も出てくるため、教育面は良くても、生活面では良くないと思う。さらに、統合しても結局は2クラスできるかどうかという小規模校の状況でもあるため、統合も良いのではと思う。

ただ、統合自体は良くても、どちらの学校にすべきかということで小学校区の壁もあるのであれば、それぞれの小学校で意見もまとめればどうかと思う。

会長 この協議会の在り方として、要望書の提出から始まっており、前向きな議論をしていくということ。ワークショップの実施を今年度目指すということなので、これに向かって進めていこうと思うがどうか。

各委員 (異議なし)

2 (3) 五ヶ丘の新しい学校を語る住民参加型ワークショップの検討について

事務局 (資料に基づき説明)

テーマ案については、別途、各委員に案を出してもらうよう依頼をさせていた

委員 40 名程度の規模ということだが、それなりの人数であるため、それぞれの団体や御意見を持っている方などに対して積極的に声をかけるなどの必要があるかもしれない。

委員 PTA などで、意見や考えを出すことのできる貴重な機会だということで案内をしてもらった方が良いと思う。

2 (4) 五ヶ丘まちづくりワークショップへの参加について

事務局 (資料に基づき説明)

会長 9月28日のまちづくりワークショップに参加し、学校再編でもワークショップができるように参考にしていく。

3 その他

会長 ワークショップ案などを検討するには、意見を集約する時間なども踏まえると協議会の開催を増やす必要があるのではないかな。

事務局 9月28日のまちづくりワークショップへの参加から11月の第3回までの間で開催ができないか調整する。

委員 自治区の方で組長に意見を聞くことなどはやってもよいかな。

委員 多くが小学生と関わりの少ない高齢者だと思われるため、難しい部分があるのでは。とにかく、それぞれの団体で、検討状況やワークショップなどについて伝えていくべきだと思う。

事務局 団体でアンケートをとっていただくことは問題ない。ただ、賛否だけでなく理由も含めて、各団体で考えていただければと思う。

委員 再編が決まらない状況で小学校の整備や修繕がされないなど、子どもたちの不利益になるようなことはないのか。

事務局 そのようなことはなく、学校数も多いため、あくまで順番や全体の予算の中で調整されている。

委員 9月28日のワークショップの参加は、参加者のみんなの意見を聞く立場と思えばよいかな。

事務局 協議会の委員として参加するため、学校に関する意見だけを言う立場と考えていただくず、広く「子育て・教育」について周囲と同じ一人の参加者として参加していただければ。案内を別途お送りする。

委員 区長として自分の自治区のことを見てきたが、五ヶ丘地区全体に目を向けると、こうした方がよいなどのことが見えてくる。皆さん協議会のメンバーになったため、広い視野でいろいろな意見に耳を傾けるよう参加してもらおうとよいのではないかな。

会長 今回のまとめ、今後の予定として、「議事録を踏まえたかわら版の案の作成」「ワークショップテーマ案の意見募集」「9月28日のまちづくりワークショップ参加の案内」「追加の協議会の日程調整」となっている。また事務局の方で調整をお願いする。

(以上 閉会)